

# 中国の大卒者就職に関する階層差の実証研究

## —上海を事例とする—

李敏(お茶の水女子大学大学院)

### 一. 研究目的

教育は、人々がよい職業に参入して、社会移動を促進する手段として機能しているということは、すでに多くの社会移動・階層研究に示されている。中国社会も例外ではない。

「教育・従軍・政治運動」といった 1978 年の経済改革まで主流であった社会移動のチャンネルが、社会経済改革によって次第に後退、消滅しつつ、代わりに個人の社会資本・文化資本・経済資本といった属性的要因が、新たな階層分化と形成に大いに影響を及ぼすようになってきた。したがって、今日の中国社会においては、教育が、数少ない社会移動の手段として、その重要性が急速に高まってきた。その中で、高等教育の収益率は、1991 年の 3.78% から 2000 年の 13.1% へと、3 倍以上の成長率を実現した(陳曉宇、陳良焜 2003)。現に産業構造の改革及び教育に対する需要の増加によって、中国の高等教育は、1990 年後半より、急激な拡大を遂げた。しかし、高等教育有償性の全面实施及び学費の高騰によって、下層階層の大学進学数が増えたものの、大学進学者に占める比率、とくに高いランクの大学と人気専門に占める比率が減りつつある(李春玲 1993、楊東平 2005)。教育機会の不平等が、中国社会階層格差を固定化、拡大する恐れがある。

進学機会においては、階層格差が存在することはすでに明らかになった。一方、見事に大学進学を果たし、社会上昇移動のパスポートを手に入れた大学生にとって、在学中の自身の努力と学校の威信などを通して、果たして生得の属性の影響を軽減、あるいは解消できるか。このことの解明は、人材の養成と選

抜機関である高等教育の意義を究明できるだけでなく、階層格差の解消の問題にも大変重要であろう。

以上の問題意識に基づいて、本報告は、大卒者の出身階層の属性と、大学時代における本人の勉学努力、及び大学威信などの要素が、大卒者の就職に与えた効果を明らかにすることを通して、四年間の大学生活を経た時点で、就職にあたり、大学でのメリトクラティックな要因が、出身階層の影響への干渉効果を考察する。仮に出身属性への干渉が存在するならば、高等教育が階層格差の解消にそれなりに寄与したと理解できよう。

### 二. 調査の概要

分析に用いるデータは、報告者が 2004 年 5 月から 6 月にかけて、中国の上海市で 8 校の大卒者を中心に実施した調査の結果である。質問紙の配布数は合計 1800 部、そのうち 1040 部(有効回答率 57.8%)の有効回答を得ている。調査対象校の 8 校の中で、a、b、c、d 大学は教育部所属の大学であるが、a、b、c 大学は総合大学であるうえ、全国大学の中で、「トップ 25」に入る名門校である。学生は、全国から募集する。学生 d 大学は 1990 年代初期から紡績服装関係の単科大学から総合大学に昇格したもので、教育部所属の大学であるにもかかわらず、大学のランキングが a、b、c 大学とかなり距離がある。しかも入学者の中に上海地元出身の人が多い。e、f 大学は、いずれも上海市地方政府所属の大学であり、学生の中に上海出身の人が 7 割を超えている。さらに g 校と h 校は高等職業学校という 3 年

制の短大である。学生の募集は上海に限られている。大学の特徴を総合に考慮して、a、b、c 大学を「上位校」、d 大学が性質から言えば e、f 大学とより近いため、この三校「中位校」に分類する。さらに、短大の g、h 校を「下位校」に分類する。

本報告は、大卒者就職をめぐる研究であるため、大卒者の中に大学院進学者と留学者数を除いて、進路選択が就職であるという大卒者を考察対象にする。その具体的な分布は図 1 のとおりである。

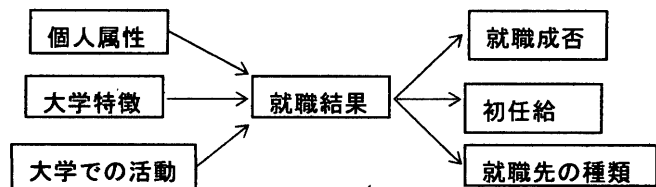
図1 サンプル分布

	男性	女性	上海	地方	農村	都市	理科	文科	合計
上位校	48.0%	52.0%	37.5%	62.5%	23.0%	77.0%	34.5%	65.5%	304
中位校	68.9%	31.1%	60.7%	39.3%	29.6%	70.4%	60.4%	39.6%	196
下位校	48.5%	51.5%	96.0%	4.0%	18.2%	81.8%	44.4%	55.6%	99
合計	329	270	328	271	146	453	309	290	599
	54.9%	45.1%	54.8%	45.2%	24.4%	75.6%	51.6%	48.4%	100%

### 三. 研究枠組

大卒者にとって、就職に影響する要因は、従来の研究には、卒業時の社会経済背景のほか、また①大卒者の家庭背景、ジェンダーなどの属性要因（李春玲 2003、郭丛斌・丁小浩 2004、Pascarella and Terenzini 1991、近藤 2001）、②出身学校の威信度、専攻などの学校の特徴（Knox, Lindsay, and Kolb (1988, 1993)、松繁 2004）③本人が在学中の学業成績、資格の取得などのアカデミックな要因と部活動、アルバイト経験などのノン・アカデミックな要因、という三つの要因に影響されていると考えられる。そして、中国の場合は、戸籍制度が存在するため、農村部・都市部、及び出身地域によって、享受できる資源及び機会もだいぶ異なる。戸籍による属性の違いが、就職結果に格差をもたらすゆえ、分析の際には、大卒者の戸籍と出身地域を属性要因として考察する必要がある。

図2 研究枠組



本研究は、以上のような三つの要因が大卒者の就職結果に、それぞれどのような影響を与えたかについて、回帰分析を実施する（図 2）。

そして、職業達成の指標として、本報告では、就職成否、初任給、就職先の種類とわけて考察する。

分析の結果とその含意について、当日配布資料で詳細に展開する。

### 参考文献

- 近藤博之 2000 『日本の階層システム 3』  
東京大学出版会
- 松繁寿和 編著 2004 『大学教育効果の実証分析』 日本評論社
- 陈晓宇、陈良焜 2003 《20 世纪 90 年代中国城镇教育收益率的变化》《北大教育经济评论》2004、3
- 2004 《对中国高等院校规模经济研究的回顾与反思》《北大教育经济评论》2004 年第 4 期
- 李春玲 2003 《社会政治变迁与教育机会不平等—家庭背景及制度因素对教育获得的影响》《中国社会科学》，2003 年第 3 期  
[http://www.sociology.cass.net.cn/shxw/s\\_hjgyfc/P020050204373182184038.pdf](http://www.sociology.cass.net.cn/shxw/s_hjgyfc/P020050204373182184038.pdf)
- 郭丛斌 丁小浩 2004 《职业代际效应的劳动力市场分割与教育的作用》《经济科学》2004 年
- 杨东平 2005 研究报告《高等教育入学机会：改善中的差距》
- 陆学艺主编 2002 年《当代中国社会阶层研究报告》社会科学文献出版社
- 2004 年《当代中国社会流动》社会科学文献出版社